

中病棟 8 階

(婦人科、免疫膠原病内科、循環器内科)

1. 看護単位の概要

病 床 数 41 床

婦人科 26 床 免疫膠原病内科 4 床 循環器内科 3 床 共通 8 床

2. 病棟の特徴

1) 婦人科

子宮や卵巣などの女性生殖器系の疾患に対して、手術療法をはじめ、化学療法や放射線療法（併用療法を含む）、免疫療法および、治験（第Ⅰ/Ⅱ相試験）を実施している。外科的治療では、開腹手術に比べて低侵襲である腹腔鏡手術やロボット手術が主流となっており、手術件数は約 35～40 件/月。在院日数は 7～10 日である。がんの浸潤状況により、骨盤内臓器を摘出するなど、侵襲の大きい手術を行うこともあり、人工肛門造設（コロストミー、イレオストミー）や尿路変更（ウロストミー）後のストマケア指導も行っている。また、リンパ節郭清術後のリンパ浮腫に対しては、入院中の予防指導に続いて、リンパ浮腫外来とも連携しながら継続的にケアを行っている。

化学療法については、手術前（NAC）および手術後の補助療法として、毎月 70～80 件前後の患者を受け入れている。多様なレジメンに対応すべく、マニュアルを遵守し、病棟薬剤師とも協働しながら、安全で質の高い化学療法看護を実践できるよう努めている。がん性疼痛をはじめ、疾患や治療によって出現する身体症状および精神症状についても、緩和ケアサポートチームとの連携を図りながら積極的に症状緩和にも取り組んでいる。

外来病棟連携、継続看護を強化しアドバンス・ケア・プランニング（ACP）に取り組むため病棟看護師が 1 名/日外来に出ており、医師をはじめ、地域ネットワーク医療部の病棟担当 MSW とも密に連携しながら、患者・家族のニーズや生活、QOL を重視したサポートを行っている。病状や患者の社会的背景などに応じて早期から地域医療との連携、およびホスピスや緩和ケア病棟などへの転院調整も行いながら、婦人科がん患者に対する医療や看護の質向上に努めている。

2) 免疫膠原病内科

免疫異常を基盤とする膠原病、自己免疫疾患の患者を受け入れている。多臓器に影響を受ける全身性疾患が多く、早期から退院後の生活を見据えた支援が必要になることも多い。多種多様な症状に応じた看護の実践ができるように日々取り組んでいる

3) 循環器内科

冠動脈造影（CAG）や経皮的冠動脈形成術（PCI）、弁膜症などの検査入院、心不全の増悪患者の治療、EICU からの退室など比較的病状が安定しており継続治療が必要な患者を受け入れている。できるだけ早期に病状をコントロールし、リハビリテーション部とも連携しながら早期退院および社会復帰を目指している。